

うえるうえる

Well Well 第51号
2020年 夏号



世の中は変化する

坂井瑠実クリニック 院長 喜田 智幸



世の中は変化します。私が医師になった30年前には、感染症はほぼ制圧できたと考えられていました。10年前には新型インフルエンザが出現し、その時は戸惑いましたが、今から考えると混乱は軽度でした。だから、お恥ずかしい話ですが、今年になって新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が中国で流行し始めた時は、世界中でこんなに大変なことになるとは思いませんでした。コロナウイルス自身は通常の風邪症候群の原因になるウイルスの一つです。SARS、MERSなど、過去に病原性の高い新型コロナウイルス（今回とは別のウイルスです）が出現していることは知っていましたが、日本では流行しておらず、特殊な病気だという認識でした。しかし今年、新型コロナウイルス感染症は世界中に広がり、私の常識は変わりました。これから私たちは、新型コロナウイルス感染症に対応した生活をしなければなりません。また、今後も新たな感染症や病気も発生します。それに合わせて、私たちは変化しなければならないでしょう。

既存の病気に対する治療も変わらなければいけません。透析医療もそうです。1998年に御影の地で、坂井瑠実クリニックが始まりました。最初の目的は、良い透析医療をすることに加え、災害時に強い施設であることと、高齢患者さんの介護に対応できることでした。その後、芦屋、本山にも施設ができ、長時間透析と自立した患者さんの自由時間を確保するために、深夜睡眠時透析（オーバーナイト透析）や在宅血液透析を開始しました。おかげさまで、そのような取り組みを支持して下さる患者さんが増えてまいりました。それでこの度は、より災害に強く、多様な透析医療に対応できるように、発祥の地である御影で増改築を行いました。それに伴い申し訳ありませんが、本山坂井瑠実クリニックは閉鎖いたします。本山坂井瑠実クリニックに通われていた方には、ご迷惑をおかけしますことをお詫び申し上げます。今後の展望について、創立者で理事長の坂井先生が、この後、強い想いを語ります。これからは皆様と一緒に良い方向に変化していきたいと思っております。

御影 臨床工学技士部より

臨床工学技士（御影） 福井 幸子

こんにちは、御影の臨床工学技士の福井です。御影の臨床工学技士部は、色黒で誠実な松川技士長を筆頭に、熊のように優しい熊谷主任、全員で13名勤務しており、うち7名が女性技士となっています。

臨床工学技士の主な仕事は、透析液の作成や、医療機器の保守点検などですが、ひと昔前は男性技士ばかりで、透析液を運んだり、透析液をタンクに入れたりなど力仕事が多く、女性技士が増えるとは想像できませんでした。けれども、今では透析液がパウダー化になり力仕事は少なくなり、医療機器だけではなく、患者さんのquality of lifeの向上のお手伝いをさせていただいています。また、子育て世代の技士もいて、みんなで力を合



わせて勤務しています。

御影の臨床工学技士部では、穿刺困難や狭窄音があれば、透析前か透析中にエコーをさせていただいています。シャントにゼリーをつけて、プローブで血管の深さや、太さ、流れを調べて、穿刺場所の変更をさせていただくこともあります。また深い血管にはエコーを使って穿刺をすることもあります。血流不足があるときは血液流量を測定し、バスキュラーアクセスのクリニックを紹介させていただくこともあります。

まだまだエコーは勉強中ですが、技術向上を目指して日々努力してまいります。

新スタッフ紹介 ①出身地 ②抱負



高井 理恵
（看護部／御影）

- ①神戸市
- ②看護が好きで、子育てしながら看護師19年目となります。それでも透析は初めての経験です。一つ一つ勉強しながら、みなさまに寄り添っていただけるよう頑張ります。



福田 実歩
（看護部ケアスタッフ／御影）

- ①兵庫県
- ②医療関係の仕事は初めてで、分からないことがたくさんありますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



宮澤 一樹
（技士部／御影）

- ①兵庫県
- ②患者さんを信じ、信頼されるスタッフになれるよう頑張ります。これからよろしくお願いいたします。



アブドウンロユティ
（技士部／芦屋）

- ①タイ
- ②周りのスタッフや患者様からも信頼される臨床工学技士になれるよう、日々鍛錬していきたいです。

編集後記

半年に渡り、建設会社の方々と私達クリニック側とで会議を重ねてきました。更地に始まり、少しずつ大きな建物ができていく渦中は、大きな工事車両や危険を伴う作業工程もあり、尚更この酷暑の中、本当に大変なお仕事だと感じました。医療に携わる者だけでなく、建設会社の方々もまた、作業員の方々の命を守り安全に作業が進むよう、徹底した管理がなされ、学ぶ事が多くありました。誕生した増築棟に命を吹き込むかのように、機材や物品を搬入し、引っ越し作業そして増築棟の歴史が始まります。コロナ禍ではありますが、スタッフも患者さんも大所帯となり、皆さんとお会いしご挨拶ができる事を楽しみにしています。 (編集委員長／城井 慶子)

発行所 医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話 078-822-8111
〒658-0046
神戸市東灘区御影本町2丁目11-10
発行責任者 坂井瑠実
顧問 三上珠実
編集責任者 城井慶子
発行日 令和2年8月31日
印刷 田中印刷出版株式会社
〒657-0845
神戸市東灘区岩屋中町3-1-4

坂井瑠実クリニック増築棟完成！

～既存棟、増築棟が絶妙なハーモニーで一体化して、
素敵な「坂井瑠実 クリニック」が出来上がりました～

坂井瑠実クリニック 理事長 坂井 瑠実

阪神大震災の直後、災害に強い透析クリニックを
造りたいの一心から1998年10月、ここ御影の地に
坂井瑠実クリニックを立ち上げました。

20年たった一昨年夏突然増築の話が持ち上がり、
今、世界中が新型コロナパンデミックの真ただ中、
遅れることなく予定どりに坂井瑠実クリニックの
増築棟が完成しました。本院、増築棟ともに、鹿島
建設にお世話になることが出来、心から感謝いたし
ております。

既設棟と増築棟が一体となった素晴らしい“新生
坂井瑠実クリニック”です。しかし中身を充実させ
る大仕事はこれからで、我々スタッフにかかってい
ます。大変ですが一緒に頑張ってください。

近隣の皆様、そして本院の皆様、工事中の騒音等々、
いろいろご迷惑、ご不便をおかけし、申し訳ありま
せんでした。

本山坂井瑠実クリニックの皆様、クリニックの都
合で8年足らずで突然本山を閉院することになっ
てしまい、申し訳ない思いでいっぱいです。あえて言
い訳をさせていただきますと、ビルの上層階の、ま
してや透析施設の災害対策は、何度避難訓練を繰り
返しても納得できるものではありませんでした。加
えて長時間・オーバーナイト透析を主に行っている
このクリニックの最大の難点は水での問題でした。

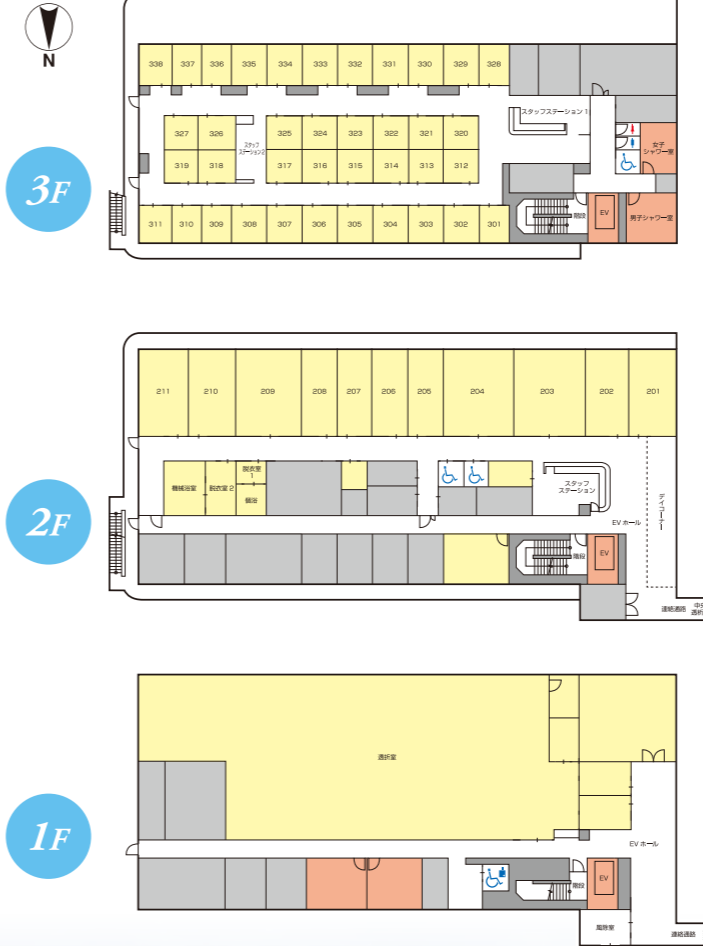
御影、芦屋の2施設がともに良質の井水が敷地内に
あるのに比べると水道代は格段の相違で、決断の理
由の一つでした。

一昨年8月、“御影本院の続きの土地が空いたの
でいかがですか？”の話が出てきました。本山はまだ
開院7年しかたっていないということ、クリニック
からの、あの素晴らしい景色にはまだまだ未練が
ありましたし、広くてソーシャルディスタンスを
十分とれて、かつこよく出来たと自画自賛の自慢の
透析施設でしたから、ずいぶん思い悩みました。一
大決心をして、今回の御影本院の増築となった次第
です。

どのように災害対策を講じ、施設をよくしても、
それだけでは“命”は守れません。透析医療の中身
を充実させるには、どのような透析をすればよいの
かを患者さんと共に考え、我々医療従事者がサポー
トし、ともに実践していくことだと思っています。

今、新生坂井瑠実クリニックを前に、若い人たちが、
透析療法の進化しうる可能性を模索して、“透析の
合併症”なる言葉が廃語になるくらいのレベルの透
析を提供できる施設に育ってくれることを強く願っ
ています。

新病棟 フロアマップ



3F オーバーナイト透析室(38床)



2F 入院階(ナースステーション前)



2F 特床室



2F 4床室



1F 透析室(48床)

